

## 布水中学校の熱中症対策

本校では、本市教育委員会作成の「所管する学校に対する熱中症対策ガイドライン」に基づき、熱中症対策及び生徒への指導を行っています。

普通教室と体育館を除く特別教室の全てにエアコンが設置されており、それぞれの教室の室温に応じてエアコンのオンオフを行っています。体育館には大型扇風機やスポットクーラーを設置し、夏期の部活動の際などで活用しています。

### ■様々な熱中症対策備品



熱中症対策温湿度計（体育館）



大型扇風機（体育館）



大型扇風機とスポットクーラー（体育館）



WBGT 測定器（全部活動顧問が所持）



冷水機（体育館付近）

■令和3年度 熱中症予防のための部活動（運動）の目安

(公財)日本スポーツ協会「熱中症予防のための運動指針」				本校での部活動対応
WBGT	気温	活動	運動の目安	
31℃以上	35℃以上	運動は原則中止	WBGT 31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	部活動（運動）はしない
28℃以上	31℃以上	厳重警戒（激しい運動は中止）	WBGT 28℃以上では、熱中症の危険が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さに慣れていない人は運動中止。	条件付きで部活動（運動）可 【条件】顧問が必ず活動場所に付く。 激しい運動・持久走は厳禁。 休息・給水を頻繁にとる。
25℃以上	28℃以上	警戒（積極的に休息）	WBGT 25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり、適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。	部活動（運動）可 ※30分おきくらいに休息・給水
21℃以上	24℃以上	注意（積極的に水分補給）	WBGT 21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	部活動（運動）可 ※積極的に休息・給水
21℃未満	24℃未満	ほぼ安全（適宜水分補給）	WBGT 21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	部活動（運動）可